

会 議 の 概 要

1 会 議 名	令和2年度第2回宝塚市社会教育委員の会議
2 開 催 日 時	令和2年10月15日（木）13時00分～15時00分
3 開 催 場 所	宝塚市上下水道局3階 第1会議室
4 出 席 委 員 [■出席 □欠席]	■平井委員 □田中委員 ■林委員 ■薄田委員 ■大西委員 □温井委員 ■河野委員 ■西本委員 ■種村委員 ■松委員 ■大坪委員
5 傍 聴 者 数	0 人
6 公 開 の 可 否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可
7 議 題 及 び 結 果 の 概 要	◆委嘱状交付 ◆報告 （1）阪神北地区社会教育委員協議会第2回理事会について （2）第62回全国社会教育研究大会新潟大会について ◆議題 （1）議長選出 （2）副議長選出 （3）社会教育委員の会議の今後の進め方について

令和2年度 第2回社会教育委員の会議 議事要旨

1 報告事項

(1) 阪神北地区社会教育委員協議会第2回理事会について

令和2年度阪神北地区社会教育委員協議会総会書面決議の報告と研修会の実施を報告。

(2) 第62回全国社会教育研究大会新潟大会について

感染症対策のため、新潟県内の市町村のみを対象とした開催を報告。

2 議題

(1) 議長選出

西本望議長に決定。

(2) 副議長選出

河野明美副議長に決定。

(3) 社会教育委員の会議の今後の進め方について

(議長)

それでは、「地域課題解決のための社会教育のあり方について」について協議を進めるにおいて、社会教育は非常に広い分野であるため、社会教育の定義や現状等について、社会教育に精通している委員より説明いただき、他の委員で共有したいと思います。

(委員)

まず、生涯学習の定義ですが、人々が自己の充実、啓発や生活の向上のために、自発的意思に基づいて行うことを基本とし、必要に応じて自己に適した手段・方法を自ら選んで、生涯を通じて行う学習としています。生涯学習の理念ですが、教育基本法3条にあるように国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図らなければならないこととしています。昨今、日本は学びに関することを個人の支出に頼る傾向がありますが、経済的に厳しい人も平等に学べる環境を作ろうということもあります。生涯学習は、社会に学べる体制が備わっていないといけないと言われていくようになりました。また、学校教育も改めて見直されるようになり、「生きる力」や「学び続ける態度」を育てようと言われるようになりました。

(委員)

生涯学習の中に社会教育、学校教育は入るのでしょうか。生涯学習は自発的なものに対して、学校教育は自発的でない気がするので、一緒と言われると違和感があるのですが。

(委員)

生涯学習の中に社会教育も学校教育も入ります。生涯学習と呼ばれる前は、生涯教育という言葉が使われており、生涯にわたってどうやって教えていこうと考えられていた

のですが、これからの時代は学習者の視点に立って学びを考えていこうと言われてきたので、自発的な学びや興味のあることを探求しようとなりました。

(委員)

視点が違うということは分かったのですが、子どもが自発的に学習することは少ない気がするのですが。

(委員)

例えば、サッカーを練習したい子どもが、運動場が無いためにサッカーを練習できないということがあれば、それは生涯学習を阻害されたということに繋がります。

(議長)

子どもの教育については、諸外国に比べて日本は保障されている方です。学校教育を受けたくても受けられない国は多く、日本の義務教育の義務は保護者に課せられています。

(議長)

子どもにとっては学ぶことは権利であり、保護者は子どもが学ぶことを阻害することができず、自ら学ぶ力を身に付けさせたいということがあります。生涯教育という言葉には、させられている感じがありますが、生涯学習という言葉には自ら学ぶ意味が強いです。

(委員)

子どもにとってみれば、自発的でない状況でも自発的に学ぶ力を身に付けることに必要な学習のため、生涯教育となっていると理解しました。

(委員)

今年度より学習指導要領が全面改訂となり、「主体的・対話的で深い学び」が示され、自分から学びに向かう子どもを育成しようという形となりました。

(委員)

世代交流も重要だと考えます。社会は多世代交流があり、公園などでも、異年齢の子どもとの交流に多くの刺激を受けているように感じます。自分も親になって、先輩の話を聞いているとすごく役に立ったことを覚えています。また、自分の経験を若い世代の人たちに教えるのも生涯学習だと感じています。

(委員)

次に社会教育の定義ですが、学校以外のところで何かを教える場を作ることが社会教育と言われています。個人が独学で取り組む学習ではなく、組織的な教育活動を指しますが、範囲は人によって様々で、行政が行うプログラムのことを社会教育と定義することもあれば、NPO法人等が実施する教育を含むこともあり、生涯学習より社会教育は少し範囲が狭まります。学習の類型についてですが、生涯学習の類型にはフォーマル学習、インフォーマル学習、ノンフォーマル学習があります。

生涯学習に該当する内容としては、公民館や博物館での学び、地域住民の協力による

催しやまちづくりで得られる学び、学校教育、趣味、文化芸術による学びなど、社会生活や自己実現に関する学びも該当します。社会問題に関する学びですが、環境問題、人権問題など解決策がすぐに出ない課題に対して、学ぶ場を提供することも生涯学習の役割とされています。社会教育が生涯学習の実現を支えていると理解していただければいいと思います。

次に社会教育の歴史についてですが、生活改善のために村人が集まって考えていたのが、社会教育の始まりだと言われています。当時公民館といった施設はなく、誰かの家に集まって話し合うことが多かったのですが、本当は施設があり、教えてくれる人がいた方がいいのではないかという考えから公民館の設置に繋がりました。公民館は、自分たちが地域をどうするかを話せる場を作ろうということ、民主主義を日本に作っていこうということで作られていきました。

公民館の機能は3つあり、つどうこと、まなぶこと、むすぶことです。事業としては、講座や講演会を行っており、学校と異なり、相互学習を重視しています。次に社会教育では何を扱うかという、要求課題と必要課題があります。例えば子育てで困っていることを知りたい、パソコンのことを教えて欲しいというのが要求課題、交通ルールや詐欺にあわないための対処方法など地域に住むうえで知っておいて欲しいことを必要課題と言います。両方を社会教育の中で繋げていき、講座にすることを社会教育の理想のひとつと言っています。今回、作成する答申も「地域課題解決のための社会教育のあり方について」がテーマですが、自分たちが住んでいる地域をどうやって良くしていこうと思っている人を増やしていくかというのは、社会教育がずっと抱えているテーマでもあると思います。ただ、社会教育に参加している社会人は一部なので、どうすれば多くの人を巻き込めるかというのも課題になっています。

(委員)

コミュニティが社会教育的な考えを持っているのではないかと考えます。ハード面も含めた市の協力も必要だと考えますが、どうやって繋げて働きかけをしていけばいいかが課題になるのかなと考えます。

(事務局)

宝塚市のコミュニティ政策は平成の初頭から始まっており、最近では、各コミュニティがまちづくり計画を再整理され進めていこうとなっています。また、学校でもコミュニティ・スクールができていますので、学校教育、まちづくり協議会との連携も今回の答申のポイントになるのではと考えます。

(委員)

平成30年に中央教育審議会が出した答申についてですが、今後の社会教育のあり方についてなどが記されているので紹介したいと思います。地域における社会教育の意義と役割を人づくり、つながりづくり、地域づくりの3つで示しています。人づくりは、生活の改善、自己実現など人間として成長できることを社会教育でつくっていくことで

す。続いて、つながりづくりですが、住民同士の助け合いや対話・議論など住民同士の絆を強めることです。地域づくりですが、地域への愛着や誇りの形成のことです。今後の社会教育の方向性も示されているのですが、以前からの課題でもある社会教育の関わりが少ない年代にどうアプローチすればいいのかがあります。SNSや地域学校協働活動など様々なツールを使って、住民に参加してもらう必要があります。

次にネットワーク型行政ですが、社会教育は幅が広いため、様々な部署やNPO、民間業者などと連携することが求められています。最後に地域の学びと活動を活性化する人材活用ですが、地域にはキーパーソンとなる人がいると思います。そういう人たちの活用が求められています。今後の社会教育施設に求められる役割として、公民館はカルチャーセンター化しているので、学んだことをアウトプットして地域に還元できることが求められています。社会教育施設の所管のあり方ですが、これまでは政治的中立性や継続性、安定性の確保などから教育委員会の所管が多かったのですが、最近は市長部局に移管するところが出てきています。理由として、社会教育のあり方を考えたときに扱う分野が広いため、市長部局に置いた方が、連携がとりやすいことが挙げられます。また、社会教育に関する施設においても複合して設置するケースが増えています。なお、社会教育を特例で市長部局に移す場合ですが、教育委員会による関与など政治的中立性の確保するために一定の担保措置を講ずる必要があります。宝塚市は、現在は教育委員会に設置されているので考える必要はないですが、今後、市長部局に移す場合には注意した方がいいということです。

(委員)

社会教育と生涯学習の違いについて理解できました。説明にもありましたが、公民館のカルチャー化は避けられないのでしょうか。

(委員)

ある程度避けられないと言われていています。社会教育主事の配置があり、プログラムを作成している人が力を持っている場合は違うかもしれませんが、人を集められる講座を実施したいとなると、人権に関する講座やまちづくりに関する講座を開催するよりも趣味的な講座を開催することが多くなります。そうなれば、カルチャー化は避けられなくなってきます。

(事務局)

宝塚市でも公民館の設置は3館であり、生涯学習の要素は強くなっています。ただ、指定管理者制度導入以降は、直営時ではできていなかった地域が学習する際に、公民館が所有するノウハウを地域に還元する取組を推進しています。

(委員)

説明にもあったように、いろいろな活動されている方は多いものの、学びになることに気づいていないことが多いと思います。大人の学びが気づきにならず、ただ遊んでいるだけになっているが、実はその遊びが社会教育に繋がることを気づかせることができ

れば、いいのではと思います。気づいて活動するのと気づかないで活動するのでは違うので、気づかせるきっかけを作ることや教える人がいれば、今後、何かいい方向に向いてくと思います。会議では、そういうきっかけを見いだせばいいと考えます。

(委員)

多くの課題が起こり解決しているが、外に広がらずそこで閉じていることが多いです。解決内容によっては素晴らしく、他に活用できることもあると思うのですが。

(委員)

それこそが、生涯学習の典型だと思います。自分たちで課題を発見し、解決していく。それを他のところに派生できればいいと思います。

(委員)

解決はできるのだが、それを派生できることだと自分たちでも気づいていないことが多いです。

(委員)

これは、行政でも多いのですが、いい事例があっても他への発信に繋がらず内部で消化してしまうことがある。専門家が入り、共有していければいいと思うのですが、なかなか難しい。公民館で本来実施したいこともそういうことが多く、いろいろな活動や成果を公民館が発信して、繋いでいくような活動が望ましいです。ただ、理想を言えば、活動している方が、自分たちで発信していくことが理想です。

(議長)

委員のおかげで社会教育、生涯学習について整理できたと思います。まだまだ、いろいろと議論したのだが時間のため、今後のスケジュールを事務局よりお願いします。

(事務局)

本日の議論は、次の答申に向けて、大きなヒントになったのではないかと思います。スケジュールについてですが、次回は柱建ての骨組を考えていただければと思います。日程調整については、後日改めてさせていただきます。

(議長)

それでは、以上をもちまして、本日の議事を終わらせていただきます。